

報告日： 6 月 2 日(火) 於:今出川校地
報告者： 社会学部社会福祉学科 2009 年度生 田代亮一

－老人介護に対する規制緩和に反対－

目次

- 0、はじめに
- 1、 検証してみよう！
- 2、 規制緩和による功罪
- 3、 おわりに
- 4、 参考文献

0、はじめに

1-1), 資料 1 より考察

⇒今と昔の介護を取り巻く環境の違いを把握していないのではないのか

1、検証してみよう！

1-1), 変化

a, 日本人の平均寿命増加

- ・資料 2 と 3 と 4 より

→高齢者の増加

→高齢者の認知症の発生率の高さ

⇒「高齢者の増加に伴い、認知症の発生率も増加している」

b, 女性の社会進出と晩婚化

- ・資料 5 と 6 より

⇒「女性の社会進出に伴い家族介護力が、低下し又少子化に伴い老人一人当たり支える人口が明らかに減っている」

c, 核家族化

- ・資料 7 より

⇒「核家族化に伴い介護は長男家族がするものといった長子相続制が崩壊している」

→介護環境は、以前に比べて格段に悪化している。

1-2), 介護は単純労働なのか

a, 介護殺人の例～京都介護殺人事件より～

読売新聞 2006 年 07 月 21 日より抜粋

「判決によると、片桐被告は母親と 2 人暮らしで、2005 年 4 月ごろ、母親の認知症が悪化。介護のため昼夜逆転の生活が続き、昨年 9 月に勤務先を退職。生活保護申請のため、福祉事務所を 3 回訪れたが、

報告日： 6月2日(火) 於:今出川校地
報告者： 社会学部社会福祉学科 2009 年度生 田代亮一

受給を認められなかった。今年1月、アパートの家賃も払えなくなり、
母親を殺害して自分も死のうと決意。2月1日朝、伏見区の桂川河川
敷で、車いすに乗った母親の承諾を得て、首を絞めて殺害した。」

⇒介護問題は、介護負担だけではなく経済的な負担、家族間の問題など様々な要素が
含まれていることを忘れてはいけない。

2、規制緩和による功罪の例

2-1)、コムスンの不正

- a 実態のないヘルパーを届け出るなど偽りの申請。
- b 事業所が取り消し処分になる前に、自ら事業所の廃止届を出して、「処分逃れ」をはかる
- c 介護報酬の不正請求

⇒規制緩和により安易に民間参入を承諾した結果ではないのか

3、おわりに

元々、社会福祉とは、「個人の自由」を前提とした「強い個人」と多様な人間存在や社会的不平等等の矛盾を解決する諸活動であるがゆえ利益追求とは対極である。だからこそ安易な規制緩和には反対である。

今行うべきことは、介護従事者のため介護報酬の改善などの社会的地位の向上、介護保険制度の抜本的な改革ではないだろうか。

参考文献

- ・岩田正美 『社会福祉入門』ミネルヴァ出版 2006 年
- ・湯浅 誠 『反貧困―「すべり台社会」からの脱出』岩波新書 2008 年
- ・日本経済新聞 『経済教室 鈴木亘 サービス拡大への規制緩和』2009 年 3 月 16 日
- ・京都新聞 特集記事『折れない葦』
- ・読売新聞 2006 年 07 月 21 日

参考 URL

- ・認知症を知るホームページ <http://www.e-65.net/index.html>
- ・社会事情データ図録 <http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/1610.html>
- ・総務相 『労働力調査』
- ・医労連 書記長による談話